



News Letter No.18

2026/7/31

目次

1. 【開催報告】第 12 回 数理・AI・データサイエンスイブニングセミナー	1
2. NVIDIA から実務家講師を招聘(AI・データサイエンス総合)	2
3. 一般社団法人データサイエンティスト協会共催 法人会員限定マンスリーセミナー 『DSS Lounge』(2026 年 5 月 18 日)	3
4. iDS 酒折ゼミにてプロ e スポーツ選手ひぽにあ氏がゲストスピーカーとして講演.....	3
5. 【開催報告】第 13 回 数理・AI・データサイエンスイブニングセミナー	4
6. 樋口知之 AI・データサイエンスセンター顧問が日本統計学会賞を受賞	5
7. アクセンチュアとマイナビから実務家講師を招聘(AI・データサイエンス総合)	6
8. KDDI 総合研究所から実務家講師を招聘(AI・データサイエンス総合)	7
9. 【開催報告】paiza ランクチャレンジ 2026 キックオフミーティング	7
10. 【開催報告】第 14 回 数理・AI・データサイエンスイブニングセミナー	8
11. 【開催報告】『データサイエンティスト検定リテラシーレベル受験ガイダンス』.....	9
12. ソフトバンク株式会社から実務家講師を招聘(AI・データサイエンス総合)	9
13. 【開催報告】生成AI と共創する行政書士実務講座	10
14. 【開催報告】生成AI と共創する司法書士実務講座	11
15. 【開催報告】第 15 回 数理・AI・データサイエンスイブニングセミナー	12
16. 所員	13

1. 第12回 数理・AI・データサイエンスイブニングセミナー

4月28日(火)、後楽園キャンパス産学官連携・社会共創フロア(3号館14階)にて、株式会社オンギガンツ代表取締役の松田雄馬氏を講師に迎え『Physical AI時代に育むべき「身体知」とは何か』と題して講演を行いました。

松田氏は、京都大学大学院修了後、NEC 中央研究所にてオープンイノベーションを推進しMITメディアラボ、ハチソンテレコム香港、東京大学などの共同研究に従事されました。その後、東北大学と共同で、脳型コンピュータプロジェクトを立ち上げ、博士号を取得。独立後はAI/IoTを軸とした新規技術開発・事業開発を多数手がけました。現在は、次世代AIの技術開発・人材育成・組織開発の三方から、DXに取り組む企業の経営戦略策定・実行までを支援されています。

主な著作に『人工知能に未来を託せますか？』(岩波書店)などがあり、高校の国語教科書7社9冊に採用されるなど、各分野で高い評価を受けています。また最近では『DX格差: AIに仕事を奪われないための5つのスキル』(三省堂)を上梓しています。

講演では、自動運転やヒューマノイド、ドローンなど、昨今のあらゆる分野でのPhysical AIの取組を紹介いただいたのち、人間とAIの本質的な違いとして「AIは自己言及できない」ということを、その具体例を挙げながらお話いただきました。また、人間の「身体体験」と「自己言及」の関係に触れながら「AIが持ちえない“身体知”」を説明いただき、今のPhysical AIの課題に対して我々が何をすべきか説明いただきました。最後にまとめとして、「AIを知り己を知れば百戦殆からず」と題し、未来での人とAIの役割や、AI時代にこそ育むべき能力についてお話しいいただいたのち、参加者と活発な質疑応答が行われました。



株式会社オンギガンツ 松田雄馬氏

講演後の参加者のアンケートでは「ユニークな視点からのお話で、興味深い内容だった。根本に立ち返って、技術を見直すことを忘れないようにしたいと思った。」「AIの理解に新たな視点を得られた貴重な機会となった。」といった意見が寄せられるなど、有意義な機会となりました。

中央大学 AI・データサイエンスセンターは、AI・データサイエンス領域での社会連携を通じて、これからも社会の発展に貢献してまいります。



榎山所長ご挨拶



講演会の様子



情報交換会の様子

[リンク:公式WEB 新着ニュース](#)

[リンク:松田雄馬氏 出版書籍](#)

2. NVIDIA から実務家講師を招聘(AI・データサイエンス総合)

5月9日(土)学部間共通科目「AI・データサイエンス総合」にて、エヌビディア合同会社から廣岡信行氏、岸本章宏氏を講師としてお招きし講義をいただきました。

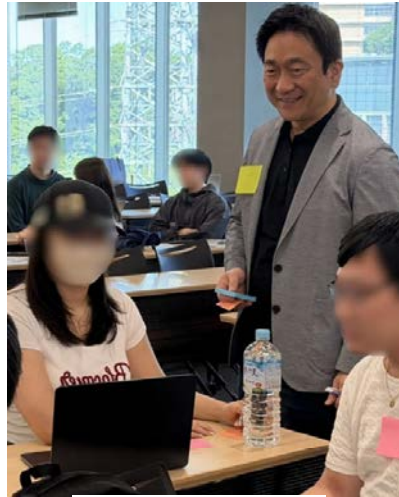
当日は、多摩キャンパスと後樂園キャンパスをオンラインでつないだ合同対面授業を行い、これまでの遠隔授業(オンデマンド型)で学修した内容を踏まえたグループワークを行いました。

グループワークでは「世の中の課題に対して『生成AI』または『デジタルツイン』を活用した課題解決のアイデアを提案」することをテーマに、参加学生は5～6名で1チームを編成して検討を行いました。

参加学生は、NVIDIA 社が提供する AI モデルの API カタログ・検証プラットフォームである build.nvidia.com を利用して AI の体験をしながら課題に取り組んだのち、グループで発表を行いました。

発表テーマは「生成AIを用いた広告制作におけるコスト削減について」「生成AIを用いた行政に関する人手不足への対策について」「教育現場における生成AIの導入事例について」と多岐にわたり、それぞれ課題の提示から始まり、生成AIまたはデジタルツインを活用した課題解決のアイデアとその活用結果や効果、今後の改善点も説明されました。

その後、学生同士の質疑応答や講師による講評があり、有意義なディスカッションとなりました。



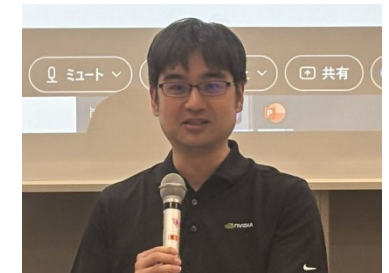
学生に助言する講師の廣岡氏

「AI・データサイエンス全学プログラム」の科目「AI・データサイエンス総合」は、私たちを取り巻く経済社会のなかで AI・データサイエンスがどのように活用されているのか、実践例を複数名の実務家から学んでいます。

授業の形式はオンデマンド型講義と対面型講義をミックスした形式で展開されています。3回シリーズの授業を1スレッドとして展開し、合計4スレッド、4組の実務家の方に講義いただきます。各スレッドは2回のオンデマンド型講義の受講と、3回目の対面型講義にて講師との議論を通じて、総合的な理解を目指していきます。



理工学術院特任准教授大野(本講義世話役)



後樂園キャンパス講師の岸本氏



グループディスカッションの様子
(後樂園キャンパス)



グループディスカッションの様子
(多摩キャンパス)

[リンク:](#)
[イエンスプログラム](#)

[リンク:エヌビディア合同会社](#)

[リンク:エヌビディア合同会社と学術連携協定を締結しました](#)

[AI・デ](#)

[ータサ](#)

[リンク:公式 WEB 新着ニュース](#)

3. 一般社団法人データサイエンティスト協会共催 法人会員限定マンスリーセミナー『DSS Lounge』(2026 年 5 月 18 日)

本セミナーは、一般社団法人データサイエンティスト協会の法人会員向けの内部セミナーとして、事業変革や AI、DS の企業内推進を担うリーダーの方々と議論し、ネットワーキングを深めることを目的に企画されており、中央大学 AI・データサイエンスセンターとの共催で開催しております。

当日は、株式会社サイバーエージェントの曾澤佑介氏を講師に迎え、「AI 時代に必要とされるデータサイエンティスト人材とは？」と題し、ご講演いただきました。

講演では、データサイエンティスト人材とその求められる役割の変遷、AI が変える未来のデータサイエンティスト人材のあり方からその人材を輩出するための組織作りの仕組みについて説明がなされました。その後、聴講された参加者と活発な意見交換がおこなわれました。

またご講演に続き、本学大学院理工学研究科ビジネスデータサイエンス専攻博士課程前期課程 2 年の冬木拓実さんから「羽田空港における構造的地理情報と混雑状況を考慮したタキシング時間予測」と題して研究発表がなされました。研究発表とその後の意見交換を通じて、参加者も大学の研究を窺い知ることができ、また発表者も研究に関する更なる課題を見つけることができる、非常に有意義な機会となりました。

中央大学 AI・データサイエンスセンターは、AI・データサイエンス領域での社会連携を通じて、これからも社会の発展に貢献してまいります。



講演する曾澤氏
(株式会社サイバーエージェント)



講演の様子



大学院理工学研究科博士課程
前期課程 2 年 冬木さん

[リンク:公式 WEB 新着ニュース](#)

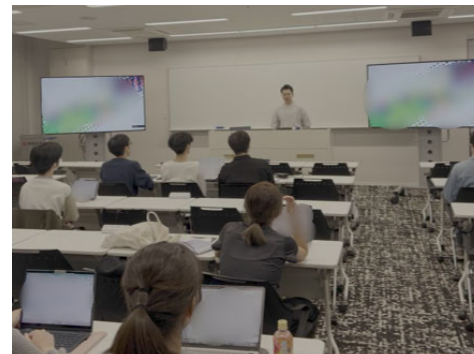
4. iDS 酒折ゼミにてプロ e スポーツ選手ぴぽにあ氏がゲストスピーカーとして講演

5 月 8 日(金)に実施された科目「AI・データサイエンス演習」(担当:酒折文武・スポーツ情報学部(仮称)開催準備室教授)において、「ぷよぷよ」についてご講演いただきました。

ぴぽにあ氏は、「ぷよぷよ」のトッププロ選手として活躍されるとともに、独自大会の主催などを通じて、e スポーツとしての「ぷよぷよ」の展開にも第一線で携わっておられます。今回の講演では、こうした豊富なご経験をもとに、「ぷよぷよ」における競技性や、勝率向上に重要となる要素について、AI・データサイエンスとの関連も交えながらお話しいただきました。

また、講演後にはゼミのプロジェクト活動にもご参加いただき、学生たちが開発を進めている「ぷよぷよ」の画像認識・分析システムについて、実際の競技者の視点から貴重な助言をいただきました。

今回の講演を通じて、学生たちは、評価指標を設計する際に競技者の視点を取り入れることの重要性について理解を深めるとともに、開発中のシステムが持つ実践的な活用可能性についても多くの知見を得ることができました。



講演するぴぽにあ氏

[リンク:公式 WEB 新着ニュース](#)

5.【開催報告】第 13 回 数理・AI・データサイエンスイブニングセミナー

5 月 27 日(水)、後楽園キャンパス産学官連携・社会共創フロア(3 号館 14 階)にて、東京科学大学 総合研究院 特任教授の青木尊之氏を講師に迎え『データサイエンスからは得られない叡智を獲得する HPC』-スピードスケート・チームパシュートおよび野球ボール(スーパード)の空力シミュレーション-と題して講演を行いました。



東京科学大学 総合研究院 特任教授 青木尊之氏

青木氏は、東京科学大学(旧・東京工業大学) 学術国際情報センターおよび総合研究院スーパーコンピューティング研究センターの教授を 24 年間勤め、GPU を用いた流体シミュレーションのパイオニアとして、我が国の GPU アプリケーションを牽引してきました。2011 年には ACM ゴードンベル賞、2012 年には文部科学大臣表彰等、多数の学術賞を受賞しており、2014 年～2024 年まで科学研究費補助金・基盤研究(S)を研究代表者として 2 回連続で採択・実施し、2025 年からは東京科学大学 協働研究拠点・特任教授として混相流シミュレーションの産業利用、砂防関連の土石流・流木シミュレーションなどを進めています。

講演では、コンピュータ・シミュレーションやデータサイエンスの概要から、NVIDIA や AMD の GPU の性能の変遷、そして国内 GPU スパコンを紹介いただいたのち、HPC (High-Performance Computing)から得られる叡智(我々の知らないデータや知見)として、回転する野球ボールの軌道の変化やスピードスケート・パシュート競技での隊列の変化による空力抵抗の比較などを可視化して説明いただきました。最後にまとめとして、コンピュータ・シミュレーションとは、HPC の技術を用いた叡智の獲得であり、その叡智を活用するのがデータサイエンスであるとお話いただきました。

講演後、参加者と活発な質疑応答が行われ、参加者のアンケートでは「普段の現場レイヤーからでは得られない知見を得ることができた。」「スポーツを流体力学の視点でみることの新鮮さと、コンピュータシミュレーションの進化に感動した。」といった意見が寄せられるなど、有意義な機会となりました。

中央大学 AI・データサイエンスセンターは、AI・データサイエンス領域での社会連携を通じて、これからも社会の発展に貢献してまいります。



樫山所長ご挨拶



講演会の様子



情報交換会の様子

[リンク:公式 WEB 新着ニュース](#)

6. 樋口知之 AI・データサイエンスセンター顧問が日本統計学会賞を受賞

中央大学 AI・データサイエンスセンター顧問を務める樋口知之理工学術院教授が、第31回日本統計学会賞を受賞されました。

日本統計学会賞は、日本の統計学分野で最も権威ある賞のひとつであり、統計学の研究および普及に対して貢献した個人に対して授与されるものです。

心よりお慶び申し上げます。

日本統計学会が挙げた授賞理由と主要業績は以下の通りです。

【授賞理由】

樋口知之氏は、時系列解析、ベイジアンモデリング、統計計算を中心としたデータサイエンス分野において顕著な成果を挙げてきた。時系列解析では、Higuchi 法として広く知られるフラクタル解析法や粒子フィルタにおける退化問題を解決する手法を提案し、当該分野に顕著な成果をもたらした。

また、ベイジアンモデリングと統計計算の応用として、ライフサイエンス、マーケティング、センサ・IoT など多様な応用分野で成果を挙げた。特に、気象・海洋学分野の手法であったデータ同化を統計科学の観点から整理し、他分野に拡大するパイオニアとして活動したことで、データ同化の適用分野が大きく拡大し、諸科学・産業の発展に寄与した。加えて、統計数理研究所所長、日本統計学会会長、統計関連学会理事長等の要職を歴任し、人材育成や統計学の発展・普及にも尽力した。

その活動は、統計数理研究所統計思考院の人材育成事業、海外諸機関・コミュニティとの交流による国際化、国内の数学・数理科学分野との連携、女性研究者の育成など枚挙に暇ない。

樋口氏の統計学・データサイエンス分野への貢献は多岐にわたる顕著なものであり、日本統計学会賞にふさわしいものである。

【主要業績】

- [1] 樋口知之(編著)他 (2011).「データ同化入門:次世代のシミュレーション技術」, 朝倉書店.
- [2] S. Imoto, T. Higuchi, et al. (2004). Combining microarrays and biological knowledge for estimating gene networks via Bayesian networks, Journal of bioinformatics and computational biology, Vol. 2, 77-98.
- [3] S. Nakano, G. Ueno, and T. Higuchi (2007). Merging particle filter for sequential data assimilation, Nonlinear Processes in Geophysics, Vol. 14, 395-408.
- [4] T. Higuchi (1997). Monte Carlo filter using the genetic algorithm operators, Journal of Statistical Computation and Simulation, Vol. 59, 1-23.
- [5] T. Higuchi (1988). Approach to an irregular time series on the basis of the fractal theory, Physica D: Nonlinear Phenomena, Vol. 31, 277-283.



中央大学 AI・データサイエンスセンター顧問 樋口知之

[リンク:樋口知之 研究者紹介\(中央大学研究者情報データベース\)](#)

[リンク:日本統計学会](#)

[リンク:日本統計学会賞](#)

[リンク:公式 WEB 新着ニュース](#)

7. アクセンチュアとマイナビから実務家講師を招聘(AI・データサイエンス総合)

5月30日(土)学部間共通科目「AI・データサイエンス総合」にて、アクセンチュア株式会社の井田佳祐氏、株式会社マイナビの高橋誠人編集長を講師としてお招きし、講義をいただきました。

当日は、多摩キャンパスと後楽園キャンパスをオンラインでつないだ合同対面授業を行いました。また講義では、生成AIを用いたアイディエーションについて、これまでオンデマンドにて学修した内容を振り返りつつ、個人ワークからグループで議論、発表を通じて理解を深めました。

ワークを行うにあたり、講師の一人である井田氏から「生成AIは考えているわけではなく確率的に文章を生成しているにすぎない。そのため、人間による検証が必要になる。また生成AIに指示するにもその構造化が求められ、ロジカルシンキングが役に立つ。生成AIに指示する際は、すべてを生成AIにゆだねるのではなく、自分のアイデアを元に生成AIにブラッシュアップしてもらうような使い方をすることで、より期待した結果を得ることができる」旨のご説明があり、また発表後は「データ分析の際に仮説を考えることは大切で、仮説を修正し続けるという工程が重要である。生成AIの時代であるが、自分の頭を使うことが大切であり、生成AIの出力任せにはいけない」とのご講評をいただきました。

高橋編集長からは「胸を熱くさせる文章を生成AIはつくることができない。国語力・文章力をのばすためにも様々な文献を読んでアウトプットしてほしい。大学時代にできることは挑戦と失敗の経験であり、失敗を恐れて生成AIに頼らないで挑戦してほしい」とのご講評をいただきました。

「AI・データサイエンス全学プログラム」の科目「AI・データサイエンス総合」は、私たちを取り巻く経済社会のなかでAI・データサイエンスがどのように活用されているのか、実践例を複数名の実務家から学んでいます。

授業の形式はオンデマンド型講義と、対面型講義をミックスした形式で展開されています。3回シリーズの授業を1スレッドとして展開し、合計4スレッド、4組の実務家の方に講義いただきます。各スレッドは2回のオンデマンド型講義の受講と、3回目の対面型講義にて講師との議論を通じて、総合的な理解を目指していきます。

なお本講義は、アクセンチュア株式会社のコーポレート・シチズンシップ(社会貢献活動)の一環として実施されました。



講義される株式会社マイナビ
高橋誠人編集長



講義されるアクセンチュア株式会社
井田佳祐氏



グループディスカッションの様子
(後楽園キャンパス)



グループディスカッションの様子
(多摩キャンパス)



講義の様子
(後楽園キャンパス)

[リンク:公式 WEB 新着ニュース](#)

8. KDDI 総合研究所から実務家講師を招聘(AI・データサイエンス総合)



株式会社 KDDI 総合研究所
福元徳広氏

6月20日(土)学部間共通科目「AI・データサイエンス総合」では「AI・データサイエンスの標準化の取り組み」と題して、株式会社 KDDI 総合研究所 福元徳広氏に講義いただきました。

福元氏は株式会社 KDDI 総合研究所で、情報通信に関する研究開発や標準化活動をされています。

本講義では、通信事業者の視点から課題解決に向けた AI・データサイエンスの活用事例や、実際にビジネスに導入する際に考慮すべき事項について講義いただきました。2回のオンデマンド授業に続き、今回は多摩キャンパスと後楽園キャンパスをオンラインでつないだ合同対面授業を行いました。また授業では、福元氏から標準化の定義や顧客体験管理の標準化動向などの解説

の後に、国内外の AI 原則や標準化団体におけるデータサイエンスに関する標準化動向についてご紹介がありました。さらに学生からの質問にも丁寧にお答えくださり、学びを深める良い機会となりました。

「AI・データサイエンス全学プログラム」の科目「AI・データサイエンス総合」は、私たちを取り巻く経済社会のなかで AI・データサイエンスがどのように活用されているのか、実践例を複数名の実務家から学んでいます。

授業の形式はオンデマンド型講義と対面型講義をミックスした形式で展開されています。3回シリーズの授業を1スレッドとして展開し、合計4スレッド、4組の実務家の方に講義いただきます。各スレッドは2回のオンデマンド型講義の受講と、3回目の対面型講義にて講師との議論を通じて、総合的な理解を目指していきます。



授業の様子(多摩キャンパス)



授業の様子(後楽園キャンパス)

[AI・データサイエンス全学プログラム](#)
[リンク:公式 WEB 新着ニュース](#)

9. 【開催報告】paiza ランクチャレンジ 2026 キックオフミーティング

6月18日(木)に「文理問わず生成AI時代に求められるプログラミングスキル～paiza ラーニングで身につける市場価値～」と題し、Paiza 株式会社学習キャリア事業企画部 平尾茜氏にオンラインにてご講演いただきました。

講演では、同社のプログラミング学習コンテンツ「paiza ラーニング」や、AI・データサイエンスセンターで共同実施する paiza ランクチャレンジのご紹介をいただきました。あわせて、飛躍的に進化する生成AI技術を見据え、これからの時代におけるプログラミングスキルの位置づけについて詳しくお話いただきました。また、参加申込に際して集めた質問やオンライン参加者からの質問にも丁寧にお答えくださいました。



[paiza ランクチャレンジ](#)
[paiza 株式会社](#)
[paiza ラーニング](#)
[リンク:公式 WEB 新着ニュース](#)

10.【開催報告】第 14 回 数理・AI・データサイエンスイブニングセミナー

6 月 24 日(水)、後楽園キャンパス産学官連携・社会共創フロア(3 号館 14 階)にて、国立研究開発法人海洋研究開発機構情報地球科学研究部門データサイエンス研究プログラム長・上席研究員、中央大学 AI・データサイエンスセンター客員所員の松岡大祐氏を講師に迎え、「海洋地球科学における AI for Science の動向と展望 -ドメイン特化型 LLM、サロゲートモデル、デジタルツイン-」と題して講演を行いました。



国立研究開発法人海洋研究開発機構 松岡 大祐氏

松岡氏は、2008 年に愛媛大学より博士(工学)を取得し、2009 年に海洋研究開発機構地球シミュレータセンターに研究員として着任されました。東京工業大学客員准教授、トロント大学客員准教授、横浜国立大学客員教授、鹿児島大学特任教授等を兼任され、AI やデータサイエンスを活用した地球科学研究と社会課題解決を推進されています。近年では、国産生成AI の開発力強化を目指した NEDO GENIAC プロジェクトにおいて気候変動に特化した大規模言語モデル開発を主導した他、JST ムーンショット型研究開発事業等において AI 気象モデルや AI 海洋モデル開発を推進されています。

講演では、科学的発見のパラダイムとして第 4 パラダイム(データ駆動型)から第 5 パラダイム(AI 駆動型)への時代の流れや、AI for Science の展望・要素(LLM、AI Agent、Physical AI)をお話いただきました。また海洋地球科学における AI 活用として、観測データ処理や大気・海洋のシミュレーション、気象・気候・海洋予測などの取組を可視化して説明いただきました。

最後に AI による社会課題解決に向けた取り組みとして、気候変動や海洋プラスチック問題に活用されているデジタルツインについて紹介いただいたのち、地球環境のデジタルツイン構築における課題を提示されました。

講演後、参加者と活発な質疑応答が行われ、参加者のアンケートでは「ドメイン特化型 LLM についてとても興味深く聴くことができた。」「気象データの利用を行なっており、サロゲートモデルについて非常に興味がわいた。」といった意見が寄せられるなど、有意義な機会となりました。

中央大学 AI・データサイエンスセンターは、AI・データサイエンス領域での社会連携を通じて、これからも社会の発展に貢献してまいります。



榎山所長ご挨拶



講演会の様子



情報交換会の様子

[リンク:公式 WEB 新着ニュース](#)

11. 【開催報告】『データサイエンティスト検定リテラシーレベル受験ガイダンス』

7月10日(金)に当センター客員所員で一般社団法人データサイエンティスト協会事務局長を務める佐伯諭先生を講師に迎え、データサイエンティスト検定リテラシーレベル受験ガイダンスをオンラインにて開催しました。

ご講演では、データサイエンスのスキルと検定との関わりや、佐伯先生ご自身の経験をふまえ、広告業界と金融業界におけるデータサイエンスの活用事例が具体的に示されました。参加者にとって、データサイエンティストのやりがいや楽しさが肌感覚で伝わる非常に有意義な機会となりました。

当センターでは、トランスコスモス財団の助成(DX 人材育成プログラム)を受けて、資格取得を目指す方を支援します。受講費用や受験費用の自己負担はありませんので、スキルアップを目指す絶好の機会です。このチャンスを活かして、ぜひチャレンジしてみてください。

データサイエンティスト検定リテラシーレベルは9月20日(日)までに、以下の【トランスコスモス財団 申込フォーム】から申し込みいただき、11月に受験いただく流れとなっています。注:申込時のメールアドレスは全学メール(@g.chuo-u.ac.jp)を必ず利用してください。



講師を務めた佐伯諭客員所員

【25年度にIDを登録済の方】

<https://job.axol.jp/hy/c/trans-cosmos-zaidan/mypage/login>

(※登録済みのIDとPWが不明な場合は上部リンク案内リーフレット記載のお問い合わせ先へご確認ください)

【新規登録される方】

https://job.axol.jp/hy/c/trans-cosmos-zaidan/entry_4616550516/agreement

(※この申し込みは、2026年9月20日(日)に終了します)

中央大学 AI・データサイエンスセンターは、AI・データサイエンス領域での社会連携を通じて、これからの社会の発展に貢献してまいります。

[リンク:公式 WEB 新着ニュース](#)

12. ソフトバンク株式会社から実務家講師を招聘(AI・データサイエンス総合)

7月11日(土)学部間共通科目「AI・データサイエンス総合」にて、ソフトバンク株式会社の山下勝司氏と荒哉太氏、松永隆太郎氏、高橋遼氏を講師に迎え、「デジタルトランスフォーメーションの導入と開発に関する議論」と題して講義とグループワークを行いました。当日は、多摩キャンパスと後楽園キャンパスをオンラインでつないだ合同対面授業を行いました。

まず講義では、荒氏から、これまで2回のオンデマンド講義内容を踏まえて、デモ実演を行いました。デモ実演では、「駐輪場の混雑可視化」をテーマに ChatGPT でコードを生成したのち GoogleColab でコード実行するといった一連の流れを説明し、エラーメッセージが出た場合の対処方法も紹介しました。

つづいて、1グループ6人程度のグループワークに移りました。グループワークでは、AIを使ったビジネス企画を立案し、目的のAIを動かすコードを生成し実行するところまで行いました。学生たちは、冒頭のデモ実演を参考にしつつアイデアを出し合い、また先生方の助言を受けながらコード生成やコード実行を行いました。

最後に各グループから、検討した企画内容や利用したAI技術、プロンプトの内容、動作結果、うまくいった点や苦労した点など発表を行いました。これを受けて荒氏から丁寧で寄り添ったご講評をいただき、講義は終了となりました。



ソフトバンク株式会社 荒 哉太氏



グループワークの様子(多摩キャンパス)



グループワークの様子(後楽園キャンパス)

科目「AI・データサイエンス総合」については、以下のURLを参照ください。

[リンク:AI・データサイエンス全学プログラム\(Connect Web\)](#)

[リンク:AI・データサイエンス全学プログラム](#)

[リンク:公式 WEB 新着ニュース](#)

13. 【開催報告】生成 AI と共創する行政書士実務講座

7月13日(月)、後樂園キャンパス産学官連携・社会共創フロア(3号館14階)にて「生成AIと共創する行政書士実務講座」(主催:中央大学AI・データサイエンスセンター 後援:東京都行政書士会、神奈川県行政書士会、行政書士白門会)を開催しました。



講演の様子

講座の1コマ目は、難波英嗣専任所員(本学理工学術院教授、専門分野:自然言語処理、情報検索)が「生成AIの基礎」と題して講義を行いました。講義では、生成AIとはということからはじめ、生成AIの仕組み、生成AIの苦手なことやその対策、生成AIの急速な進化について、最新情報を踏まえつつ丁寧に紹介しました。

講義の2コマ目は、田後隆二行政書士(日本行政書士会連合会専務理事、行政書士さがみ総合事務所所長、特定行政書士・申請取次行政書士)が「生成AIの行政書士業務への影響」と題して講義を行いました。講義では、AI活用が行政書士業務の構造を変化させた流れ、行政書士業務における「AIが代替する領域」「AIが補助する領域」「AIでは代替できない領域」について解説し、許認可業務、補助金申請、在留資格・国際業務等におけるAI活用の具体的なポイントが示されました。

講義の3コマ目は、加藤美樹行政書士(神奈川県行政書士会デジタル化推進WG委員、かとう行政書士事務所代表、特定行政書士・申請取次行政書士)が、「行政書士の未来に向けたキャリア戦略と倫理的視点」と題して講義を行いました。講義では、AIについて「使えるか、使えないか」ではなく、「AIにより出力された結果の評価と修正、責任を持つこと」が重要であり、AIとの関わり方が個人のキャリアの転換点となること、が示されました。その後、「補助と整理をAIに任せ、判断と責任を人間が担う」という役割分担に基づき、AIと共創する思考サイクルや実務への適用例(在留資格申請、許認可申請、補助金申請、相続手続き)が説明されました。

講座を通じて参加者からは、「職務倫理等の観点から俯瞰的に内容を捉えるという内容で再認識できた」「次回は業務の自動化に関する実務演習を含む講座を期待する」といった声が寄せられました。

中央大学 AI・データサイエンスセンターは、AI・データサイエンス領域での社会連携を通じて、これからも社会の発展に貢献してまいります。



難波英嗣理工学術院教授



田後隆二行政書士



加藤美樹行政書士



東京都行政書士会会長 宮本 重則氏
後援者ご挨拶



神奈川県行政書士会デジタル化推進WG座長
小川 恵一氏 後援者ご挨拶



行政書士白門会会長 塩田 英治氏
後援者ご挨拶

[リンク:公式 WEB 新着ニュース](#)

14. 【開催報告】生成 AI と共創する司法書士実務講座

7 月 25 日(土)、後樂園キャンパス産学官連携・社会共創フロア(3 号館 14 階)にて「生成 AI と共創する司法書士実務講座」(主催:中央大学 AI・データサイエンスセンター 後援:千葉司法書士会、埼玉司法書士会、中央大学司法書士白門会、佐藤純通日本司法書士会連合会名誉会長)を開催しました。

講座の 1 コマ目は、難波英嗣専任所員(本学理工学術院教授、専門分野:自然言語処理、情報検索)が「生成 AI の基礎」と題して講義を行いました。講義では、生成 AI とはということからはじめ、生成 AI の仕組み、生成 AI の苦手なことやその対策、生成 AI の急速な進化について、最新情報を踏まえつつ丁寧に紹介しました。

講座の 2 コマ目は、中村圭吾司法書士(司法書士・行政書士アデモス事務所代表、司法書士・行政書士)が「生成 AI の司法書士業務への影響」と題して講義を行いました。講義では、調査や登記、広報など毎日の実務に生成 AI を組み込み、実際に使用してみた結果や「生成 AI ができること/できないこと」を実演を交えながら解説されました。また、生成 AI を実務で使用した際のリスクとその管理についても触れ、生成 AI は「司法書士に置き換わる存在」ではなく、「定型業務を圧縮して、相談業務に時間を戻す道具」であることが示されました。

講義の 3 コマ目は、岩白啓佑司法書士(司法書士法人ラインメツツア代表、司法書士・行政書士・経営心理士)が「生成 AI 時代に司法書士が磨くスキル」と題して講義を行いました。講義では、AI 代替困難性が高い業務と AI に代替できる業務を示し、これからの司法書士に必要な批判的な思考力やプロフェッショナルとして磨くべきスキルについて説明されました。その後、生成 AI には代替できない、人との信頼関係を構築する感情コミュニケーションの重要性とその内容について、会話の展開パターンなどを挙げつつ詳しく解説されました。



講演の様子

講座を通じて参加者からは、「業務の省力化や改善に向けて、自分も AI を活用してみたい」「AI を積極的に利活用している講師の実践活用例が大変参考になった」「次回は業務に直結する実践的な AI 活用法の具体的な使い方を学ぶ講座を期待する」といった声が寄せられました。

中央大学 AI・データサイエンスセンターは、AI・データサイエンス領域での社会連携を通じて、これからも社会の発展に貢献してまいります。



難波英嗣理工学術院教授



中村圭吾司法書士



岩白啓佑司法書士



酒折副所長 開会挨拶



日本司法書士会連合会名誉会長
佐藤純通氏 後援者ご挨拶



司法書士白門会会長 但木康時氏
後援者ご挨拶

[リンク:公式 WEB 新着ニュース](#)

15. 【開催報告】第15回 数理・AI・データサイエンスイブニングセミナー

7月29日(水)、後楽園キャンパス産学官連携・社会共創フロア(3号館14階)にて、株式会社GA technologies General Managerの橋本武彦氏を講師に迎え、「IT化の遅れた不動産業界における現場活動のデータ化に向けて」と題して講演を行いました。



株式会社GA technologies 橋本 武彦氏

橋本氏は、SIer(エンジニア・研究員)、マーケティングリサーチ会社を経て、2008年より株式会社ブレインパッドでシニアデータサイエンティストとして主にマーケティング領域のデータ分析や人材育成事業の立ち上げに従事されたほか、一般社団法人データサイエンティスト協会の立ち上げにも事務局長として参画されました。2017年からは株式会社GA technologiesでデータ整備や対外的な業務を担い、産官学連携や教育にも注力され、現在は、大学での教育活動や政府委員、著書執筆など幅広く活動しています。

講演では、導入として不動産業界の業界構造や市場規模をご説明いただいた後、不動産業界の課題として、低い透明性や生産性に起因する情報の非対称性やIT化の遅れを提示されました。またAX(AIトランスフォーメーション)推進の前に立ちはだかる壁を「収集の壁」「整備の壁」「組織の壁」をあげ、コミュニケーションと技術による対処の経験をGA technologies社の事例を交えながらお話いただきました。最後にまとめとしてGA technologies社が目指す次世代のAIネイティブカンパニー像を紹介いただき、不動産ビジネスの現場活動をデータ化し、競争力の源泉としていきたい思いについてお話いただきました。

講演後、参加者と活発な質疑応答が行われ、参加者のアンケートでは「不動産業界のIT化において、まだアナログな部分が多く課題も多いことが改めて認識できた。」「不動産業界の根強い紙文化を変えていく意義を知ることができたので、現場に出るものとしてデジタル化に協力していきたいと思った。」といった意見が寄せられるなど、有意義な機会となりました。

中央大学 AI・データサイエンスセンターは、AI・データサイエンス領域での社会連携を通じて、これからも社会の発展に貢献してまいります。



梶山所長ご挨拶



講演会の様子



情報交換会の様子

[リンク:公式WEB新着ニュース](#)

16.所員

AI・データサイエンスセンター 所員

専任所員数 76

客員所員数 14

(2026 年 7 月 31 日現在)



所属別 専任所員内訳(学内のみ)

所員一覧は、[こちらのリンク](#)をご覧ください

中央大学 AI・データサイエンスセンター
ニュースレター No.18

発行日:2026 年 7 月 31 日発行

発行所:中央大学 AI・データサイエンスセンター事務室
〒112-8551東京都文京区春日1-13-27
ai-and-ds-grp@g.chuo-u.ac.jp
https://www.chuo-u.ac.jp/aboutus/efforts/ai_and_ds/

表紙:中央大学理工学部写真会
<https://www.instagram.com/chuophotoclub/>
【中央大学理工学部写真会 instagram】より

題 名:「夏の怪物」

撮影者:牧野喬さん(基幹理工学部生命科学科 4 年)